

アクティブ・バイスタンダー (行動する傍観者)

アクティブ・バイスタンダー(行動する傍観者)とは、ハラスメントやさまざまな暴力や差別が起きるとき、その場に居合わせた第三者が被害を軽減するために、状況に応じてできる行動をする人のことです。



5 D アクティブ・バイスタンダーができる5つの介入方法

- Distract (注意をそらす)** 関係のない話をしたり、加害者の邪魔をする
 - Delegate (第三者に助けを求める)** 近くにいる大人や先生などの介入を求める
 - Document (証拠を残す)** 写真等で状況の記録。取り扱いには注意する
 - Delay (後で対応する)** 被害後に声掛けなどのフォローやサポートを申し出る
 - Direct (直接介入する)** 「それはハラスメント(差別)ですよ」と直接注意する
- ※危険が伴う場合があるので、自分自身の安全が確保できているかは確認する

傍観者が加害者の言い訳を支えてしまうと、被害を受けた人に恥意識や罪悪感、無力感を持たせ、誰にも相談できず孤立させてしまい、放っておくと深刻化してしまいます。アクティブ・バイスタンダーが増えることは、状況の悪化を防いだり、被害者が声を上げやすい社会になるなど、差別やさまざまな暴力発生の予防にもつながっていきます。

◎ 電話相談窓口 ◎

みんなの人権 110 番

Tel 057-003-110 (全国共通人権相談ダイヤル)
平日 8時30分～17時15分(祝日、年末年始を除く)

人権啓発センターさが

Tel 0952-25-7229
平日 9時～17時(祝日、年末年始を除く)